



YMCA

大阪青年

2005 Dec. 12

No. 579

月刊 TheYMCA 付録
編集・発行/日本YMCA同盟 東京都新宿区本塩町7番地
大阪青年 発行: 錦織一郎 編集: 大阪YMCA広報室
〒550-0001 大阪市西区土佐堀1-5-6
TEL.06-6441-0894 FAX.06-6445-0297
URL: http://www.osakaymca.or.jp/
(年10回発行) 1947年10月27日 第3種郵便物認可

2005年度大阪YMCA年間聖句

「励ましあいなさい。思いを一つにしなさい。平和を保ちなさい。」(コリントの信徒への手紙II 13章11節)

大阪YMCAの使命

大阪YMCAは、聖書に示されたイエス・キリストの愛と奉仕の生き方に学び、YMCAの世界的な運動に連なり、希望を持って、共に生きる社会の実現をめざします。

- ボランティア精神を高く、互いに協力し、明るくあたたかい地域社会の形成に努めます。
- すべての世代の人びとが、出会いと生きがいを見い出すための、生涯にわたる気づきと学びの活動を展開します。
- 未来を築く力強い子どもたちを、家庭・地域社会と共に育てます。
- 生命を尊重する心を養い、自然と人間が調和する動きをすすめます。
- 世界の人びとと力を合わせ、環境、人権、貧困の課題に取り組み平和で公正な世界をめざします。

クリスマスの喜びを膨らませよう

子どもたちのクリスマス物語

「私たちもイエス様を拝ましてくだささい」

毎年楽しみにしているYMCA松尾台・しろがね両幼稚園でのクリスマス・ページェント(降誕劇)。新しい発見と暖かなメッセージを頂くことができ、またよく知っているはずのページェントなのに、なるほどなると教えられることが多くあり、とても嬉しい時を過ごしています。

クリスマス物語。それは実に「さむい」物語だと思えます。臨月を迎え、旅する女性を誰も部屋の中に迎え入れようとしなかったのですから。「トントントン、宿屋さん。今晩一晩泊めてください」「困った困った、どうしよう」とページェントは演じられます。宿屋さんはちよっぴり意地悪な役なんです。でもYMCA幼稚園の劇では一味違っていました。

羊飼い・東方の学者らが幼な子を拝みに家畜小屋へ行きます。その次になんと宿屋さんたちも「私たちもイエス様を拝ませてください」とやって来たのです。これを見て「さむい」クリスマス物語が、ほんわか暖かく感じられたのを今も覚えています。

このページェントを見てからというものは、宿屋さんはどんな思いで家畜小屋を訪問したのか気になって仕方ありませんでした。いろいろと想像してしまいます。(さつきは申し訳なかった。今晩はとても冷え込みそうじゃ。お詫びのしるしにこの温かいスープでも飲んでおくれ。)そう言いながら家畜小屋を訪ねたのかもしれない。そして幼な子と出あいます。宿屋さんはきつと、先客の羊



飼いや東方の学者たちからこの幼な子が救い主であることを聞かされたことでしょうか。(申し訳なかった。こと)という思いが、じわじわと喜びへと変わっていきつた。うん、きつとそうに違いない。と。今年もそんなYMCA幼稚園のページェントが見られるのを楽しみにしています。



その星を見て、非常な喜びにあふれた。(2章10節「口語訳聖書」と書いてあります。「非常な」というギリシヤ語には、「へー、そうなの」「えつ、ほんまなん?それ」「うわーつ、それつてすごいわー!」

という感じに、小さなものがだんだん大きくなっていく様子が隠されているとか。つまり、喜びを徐々に膨らませていった学者たちがいたのです。

クリスマス物語に出あう私たちに求められているのは、YMCA幼稚園のページェントに出てくる宿屋さんのように「さむい」ところに心を向けながら、そこからじわじわと喜びを大きく膨らませてゆくことではないでしょうか。日々の生活の忙しさに追われて余裕を失ってしまいがちな私たちが、今年も出あうクリスマス物語から聴いてゆくの。さあ、どこに眼差しを向けましょうか。誰と喜びを分かち合いますか。まもなくクリスマスはやってきます。

学校法人大阪YMCA学院評議員
日本キリスト教団 能勢口教会牧師
早瀬和人

地の塩

▼11月27日から12月24日までを待降節(アドベント)とキリスト教会では呼んでいます。教会の暦で言えば新年が始まります。この一年も世界は災害、貧困、流血と人間の営みの中で、悲しみと憎悪を繰り返してきました。これほど文明・科学が進歩しても大きな自然の力を前にして人間の無力を思い知らされています▼その中でYMCAは力強く国内外で支援、交流活動を展開し、YMCAミッションに掲げた「イエス・キリストの愛と奉仕の生き方に学ぶ」ことを行動で示しました。夏には30年来続けられている聴覚障がい青少年国際キャンプをマレーシアで共同開催し、未来に希望を抱くプログラムを行いました。また、全国YMCAからリーダーたち18名がスリランカを訪問し、津波災害と内戦被害に苦しんでいる子どもたちと共に「心のケアキャンプ」を実施し、心豊かに交わりました▼アドベントは、キリストの来臨を希望と忍耐をもって待ち望む時です。そして今も、キリストは私たちと共にいてくださり、YMCAの交わりの中に生きてくださいます。YMCAでは近隣の教会を会場にしてクリスマス礼拝を開き、日本語学科に学ぶ留学生は国際専門学校学生と一緒に「ゴスペル」を歌い、日・英・中・韓国語による聖書朗読等によつてイエス・キリストに触れる機会を持っています▼21世紀は「環境の世紀」「心の時代」と言われています。YMCAでもさまざまな活動にその意を汲み、熱き先人の思いと合わせさらに邁進いたします。(塚)